

睡眠医学・精神医学領域における 自己免疫性脳炎

Autoimmune encephalitis in sleep medicine and psychiatry

＊ 講師紹介 ＊



スタンフォード大学 睡眠・
生体リズム研究所所長
スタンフォード大学 医学部
精神科教授

西野 精治 先生

1999年～2000年に慢性の原発性過眠症であるナルコレプシーにおける原因遺伝子および発生メカニズムを解明した。2005年にスタンフォード睡眠・生体リズム研究所の所長に就任し、睡眠・覚醒のメカニズムを、分子レベルから個体レベルまでの多方面からのアプローチにより研究している。著書「スタンフォード式 最高の睡眠」が30万部を超えるベストセラーになった。新刊「スタンフォード大学教授が教える 熟睡の習慣」も絶賛発売中。

＊ セミナー内容 ＊

私の研究対象であるナルコレプシーは自己免疫異常によりオレキシン・ハイポクレチンの神経脱落が後天的、特異的に生じ発症することが判明している。近年、多彩な精神症状や、ジスキネジア、けいれん発作、自律神経症状や中枢性の呼吸抑制、意識障害などの症状を呈する抗 NMDA (N-メチル D-アスパラギン酸) 受容体抗体に関連した脳炎 (抗 NMDAR脳炎) の存在が話題になっている。抗 NMDAR脳炎は若年女性に多く、卵巣奇形腫を伴う頻度が比較的高い。本邦でも筒井、神林らが、脳炎症状が前面に出る症例以外に、精神症状が前面に出て非定型あるいは緊張病型の統合失調症の初発を想起させる症例を相次いで報告した。睡眠医学・精神医学領域における自己免疫性脳炎の研究の歴史と進展について考察を加えたい。

＊ セミナー詳細 ＊

【日時】 2019年3月14日(木) 17:00～18:30

【場所】 日亜メディカルホールWhite
(外来診療棟5階)

【主催】 医歯薬学研究部 統合生理学分野 勢井宏義

本セミナーは、大学院特別講義を兼ねています。大学院生の皆様もぜひご来聴ください。他部局の方のご参加も歓迎いたします。セミナー参加の事前申し込みは不要です。当日直接会場へお越しください。